

## 学 会 記 事

### 第4回徳島医学会賞受賞予定者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期総会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第4回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。両名の方々には第221回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号（6月25日発行予定）に掲載いたします。

（大学関係者）



受賞にあたり：

この度、私の研究を第4回徳島医学会賞に選出しいただき、選考委員の先生方をはじめ関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

当科には、良性肺疾患、肺癌、喘息アレルギーおよび膠原病をテーマに4つの研究グループがあり、私は大学院生時代から肺癌グループに所属し、肺癌の集学的治療法開発を目的に研究を行ってまいりました。肺癌の難治化の要因としては、診断時における遠隔転移形成や局所浸潤、化学療法や放射線治療に対する耐性の獲得があげられていますが、それぞれの病態を分子レベルで解析し、有効な治療法を開発すべく研究を続けていく所存ですので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この研究をご支援していただいた研究室の皆様、大学院時代から一貫して御指導いただいている曽根三郎教授に深く感謝いたします。

受賞者氏名：矢野聖二

生年月日：昭和40年9月9日

出身大学：徳島大学

所属：徳島大学医学部内科学第三講座助手

研究内容：1．肺癌の浸潤・転移メカニズムの解明  
2．血管新生を標的とした新規治療法の開発

( 医師会関係者 )



受賞者氏名：大久保新也 おおく ぼしん や

生 年 月 日：大正 9 年 3 月 30 日

出 身 大 学：東京医学専門学校（現東京医科大学）

所属医師会：徳島市医師会

勤 務 先：大久保病院院長

徳島市医師会衛生害虫研究所所長

研 究 内 容：徳島市で行われている防蚊活動について

受賞にあたり：

この度私の研究が第 4 回徳島医学会賞を頂くことになり関係各位の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

私は昭和23年より31年迄東京大学細菌学教室にて助手として主に日本脳炎ウイルスの研究をし、併せて昭和27年より昭和31年迄国立東京第一病院内科に出向し昭和31年 9 月より大久保病院を開設しました。その頃の徳島市は蚊の多いのに驚きました。入院患者のベット毎に夜になると蚊帳を吊っておりましたし、医師会館での夜の会議では洋服の上から刺され

る程蚊の多い処でした。したがって日本有数の日本脳炎多発地でもありました。

昭和36年私が徳島市医師会会長になり医師会館の新築にあたりその一画に蚊の研究室を作ることになり（後の衛生害虫研究所）東大医科研の佐々教授をお訪ねし色々御指導を頂きました。

先づその当時、佐々教授から羽田空港の溝で日本で再発見されたカダヤシ（*Gambusia affinis*）俗名タツプミノを分与して頂き自治体として日本で始めて徳島市全体で蚊のボウフラを絶滅しようとなりました。東大医科研からも数名が派遣されて徳島市をくまなく調査しました。当時害虫対策には有機リン剤を主とする殺虫剤を用いることが常識であった。しかしこれは害のみ多く私は最初からこれを使わなかった。1972年米国で合成された methoprene は蚊、ユスリカ、チョウベエハエ、ヌカカ、アブ、ブユにのみ作用し毒性も極めて低いので有機リン剤に代って用いられる様になった。methoprene は非常にこれれ易く実用には使われなかったが大塚製薬がこれにカーボンを加えることにより安定化せしめ、その最初の実験が徳島市で行われ徳島市、徳島市医師会、大塚製薬の三者でその有効性が確認された。

徳島大学医学部附属病院ではチカイエカの大発生に悩まされていたが昨年この methoprene を 1 年中、特に発生の多い 7 月、8 月、9 月には 2 回処理することによりほぼチカイエカは鎮圧に成功したと思います。しかし処理を止めれば又元通りになりますのでこの状態をエンドレスに持続することが必要です。処理方法としては、( 1 ) カダヤシ *Gambusia affinis* , ( 2 ) Methoprene 昆虫幼若ホルモン、( 3 ) 液体蚊トリ器（アースノーマット）にて蚊はほぼ撲滅できるものと思われる。